

# 令和2年度 第4回 府中市保健計画・食育推進計画推進協議会議事録

日時：令和2年10月7日（水）  
午後6時45分～7時45分  
場所：保健センター 1階

- 出席者 委員：藤原 佳典（学識経験者・  
独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所）  
芦川 伊智郎（社会福祉関係・府中市社会福祉協議会）  
井手 徳彦（医療関係団体・府中市医師会）  
黒米 俊哉（医療関係団体・府中市歯科医師会）  
恩田 茂（商工関係団体・むさし府中商工会議所）  
星野 浩伸（商工関係団体・(株)セブン-イレブン・ジャパン）  
池田 晃次（農業・マインズ農業協同組合）  
田邊 純子（健康増進又は介護予防のための運動を指導する者・  
府中市立介護予防推進センター）  
廣繁 理美（関係行政機関・多摩府中保健所）  
清水 春美（公募による市民・市民）  
平河 弘子（公募による市民・市民）

事務局：柏木福祉保健部長  
横道健康推進課長  
斎藤健康推進課長補佐  
中澤地域福祉推進課長補佐兼福祉計画担当副主幹  
石田子ども家庭支援課長補佐  
石川高齢者支援課介護予防生活支援担当主査  
谷本学務保健課給食センター所長（代理：給食センター後藤栄養士）  
石堂保健師（健康推進課・成人保健係）  
小澤保健師（健康推進課・成人保健係）  
古谷保健師（健康推進課・成人保健係）  
渡邊歯科衛生士（健康推進課・成人保健係）  
中鉢栄養士（健康推進課・成人保健係）  
松村栄養士（健康推進課・成人保健係）  
佐藤歯科衛生士（子ども家庭支援課・母子保健係）  
齊藤栄養士（子ども家庭支援課・母子保健係）

※協議会規則第4条の2項により、委員13名のうち11名が出席しているため、本協議会は無効とされました。

■進行：斎藤健康推進課長補佐

- ・開会宣言
- ・開催における注意事項
  - (1) 新型コロナウイルス感染拡大予防に配慮した会議運営について
  - (2) 議事録作成について
- ・本協議会の議事内容説明

本日は保健計画及び食育推進計画の素案について、みなさまからのご意見・感想をいただきます。装飾枠等をつけたデザイン（案）を回覧いたしますので、参考にご覧ください。なお、素案では本文と必要なコラムや資料を掲載しております。今後、余白にイラストや写真等を挿入し、最終の計画書を作成します。

- ・配布資料確認 ※配布資料は別添参照
- ・傍聴希望者なし

■これより、議事進行は会長となる。

## 1 議事

- (1) 第3次保健計画（健康ふちゅう21）第3次食育推進計画素案について（[資料1](#)参照）  
【事務局】 前回みなさまからいただきましたご意見をもとに修正した点をご報告します。

まず、1点目として、本計画を策定するにあたり、他計画との関連等、本計画の位置づけが分かる方が良いのではないかというご意見をいただいております。

(P.3) 計画の位置づけは、国や都の計画と、市の他計画との関連を示しております。子ども子育て支援計画や地域防災計画それぞれの計画と整合・連携を図り、進めていくことを明記しています。

2点目として、前回の協議会后に追加・修正した内容についてご説明します。まず、「からだ」や「こころ」等、ひらがな・カタカナ・送り仮名や、「かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局」（P.100）といった表記については、公文例や国・都の計画等を参考に統一しました。

3点目に、ソーシャルキャピタルや元気いっぱいサポーター、企業との連携、食の安全安心を届ける取組、噛み応えや野菜ジュースに関する事等、本文中に示す文言や取組について、詳細説明があった方がよいのではないか、というご意見をいただいております。必要な項目を精査し、例えば P.71 のように、関連するページに「コラム」を掲載しました。また、P164 以降に参考資料として、用語集、指標一覧等を示しました。

続きまして、食育推進計画に関連する部分について3点ご説明いたします。

(P.131) 施策の体系図について、表・裏の印刷となっておりますが、P.128の前に余白の調整ページが入り、保健計画と同様に見開きになる予定です。本日の資料は、P.128より、1ページずつずれておりますこと、ご了承ください。

2点目です。P131 基本方針2のライフステージ（6）について、前回までは「妊娠・子育て期」としておりましたが、子育て期の子どもの年齢の線引きが難しいこと、保護者に対する取組が他のステージの内容と重複してしまうことから、事務局で再考し、「妊産婦期」に名称を変更しました。「妊産婦期」では、妊産婦とその家族への取組に焦点を絞り、子育て期として記述していた保護者に対する

取組については、乳幼児期や学齢期に記述を移しました。

最後に、国においても本市と同様に今年度で食育基本計画の計画期間が満了となることから、令和3年度からの計画となる第4次食育基本計画の策定の検討が行われています。10月1日に開催された「食育推進評価専門委員会」にて、次期計画の重点課題についての検討が行われました。国では、SDGs（持続可能な開発目標）の実現に向けた食育の推進をコンセプトとすることや重点課題の方向性の一つとして、新しい生活様式に対応した食育の推進を掲げています。そこで、追加資料「食育推進計画内容変更について」と資料P.130、P153をご覧ください。国の状況に合わせるため、基本方針3でSDGsについて触れております。また、基本方針3の具体的取組（1）「食を通じたコミュニケーションの機会を増やす」の③指標と目標は追加資料の内容に変更いたしました。急な変更になりましたが、国の方向性と合わせた内容にするための修正となります。説明は以上です。

【会長】 前回の協議会以降、修正・追加された部分はありますが、これまでに本文に対するご意見はいただいたものと理解しています。本日は計画書全体について、委員の皆さまからお一人ずつ、もう一度全体を振り返ってご意見やご感想、今後の実践に向けたメッセージなどがあればいただきたいと思います。

【委員】 まず初めに、事務局の皆さん、藤原会長ありがとうございました。まずコロナ禍での「新しい生活様式」という事を所々入れていただき、タイムリーでとても評価できる場所だと思っている。福祉の分野からいうと、地域での関わりというところを入れていただき、また、福祉の分野だけでなく新生活全般でこれから求められるものは、ふれあいやつながり、地域での展開が必要になってくると思うので、健康分野でもそこを漏らさずに入れていただいて本当にありがたい。この計画に沿って、私たちの福祉の計画も進めていけたらと思っている。ありがとうございました。

【委員】 非常によくまとまってきていて良い形になってきていると思います。これからの何年間の取組みの土台となる策定ですので、良くまとまっていますし、ソーシャルキャピタルなど一般の方には分かりにくい言葉をこのようにコラムなどに分かりやすく入れていただくのは、啓蒙する意味でも良いと思いました。概ねの方向性としては今の形でとてもよいと思います。この先これを実行に移していくのはこれから何年かの取組みになるので、これで良いと思う。ただ、保健計画P.13のコロナウイルス感染症の表について、すごく小さいので、もしレイアウト上、許されるのであればもう1ページ入れて大きくする等の工夫があると、とてもありがたいと思いました。

【委員】 このようなことは初めてなのでよく出来上がっているのかわからない部分もあるのですが、以前にも話したが首都大学東京の教授が、長生きしようと思ったら運動も大切だが、まず体の入り口であるお口の中の環境を、運動と同じくらい大切に考えてはいかがでしょうか、と言うことで『長生きしたければかかりつけ歯科医を持ちなさい』とあって、それに関連する本も出していた。それに関連して、同じ首都大学東京の大学院の方の学位論文を読んでいたら、同じように、長生きしたければかかりつけ歯科医を持ちましょうという中で、特に

女性では生存率に顕著な違いが男性以上に出ているという事で、今後、府中市でもその辺の男女差を比較検討していただければと思います。

【委員】とても素晴らしいものができたと思います。分からないことがあった時の説明書きもあり、とても良いと思いました。このようなことに初めて携わるので分からないこともありましたが、すごく良いものを作っていただきありがとうございます。

【委員】ここまでまとめるのは大変だっただろうと素直に感心しました。内容そのもの細かいところは前回までに出ていた意見を取り入れていただき、文言等修正されていてありがたいと思います。私もコラムはとても良い工夫だと思っていて、むしろ本編をまとめるより、コラムを差し込んでいく方が大変だっただろうと思う。絵や色遣いなどの工夫で、なかなか文章を読むことが得意な方は少ないと思うが、コラムだけ読むだけでもいろいろな知識が得られるつくりになっていて良い。いろいろな方に読んでいただくという努力と敷居を下げるという対応は素晴らしいと思いました。

【委員】まず、食育計画のP. 158に府中市の特産品の情報を載せていただきありがとうございます。前回欠席させていただいて申し訳なかったのですが、事務局から前回の協議会でトレーサビリティということがでて、生産履歴のことを載せられたらいいのではないかとお話をいただき、事務局と何度かやり取りをさせていただきました。安全安心の農産物の供給に向けてという記事を載せていただき、ありがとうございました。このようなコラムがあると見やすく市民の目にも止まるのではないかと思います。

【委員】とても関心のある読み物のような感じで読ませていただきました。先ほど回覧されたサンプルも色遣いがきれいで読みやすく、手に取ってみようかなという気持ちになると思いながら拝見しました。コラムにも前回出た野菜ジュースの一言や、賞味期限と消費期限など細かいことだけど市民が知りたかったな、と思うことが入っていて良いと思いました。1点あると良いと思ったことは、本編に入る前の『本冊子を読む留意事項』のところなど始めに、ライフステージの区分説明があった方がアンケート調査などで出てくる内容がどの層のことを言っているのか、もっと分かりやすくなるので良いと思いました。

【委員】（欠席のため挨拶文代読）

平素より保健所の事業にご理解ご協力をいただきありがとうございます。新型コロナウイルス感染症の発生動向については、6月の緊急事態宣言解除後、7月下旬から8月上旬にかけて大きな増加がありましたが、現在はピークを過ぎたものの引き続き減少傾向なく、推移しています。コロナ禍において新しい生活様式がすすめられ、学校や高齢者等の社会福祉施設、公共施設などでも拡大防止策が進められ、府中市及び市民の皆様に様々な点で、感染対策にご協力いただいていることに感謝いたします。保健計画では、重点項目の中では健康危機管理の部分で在宅人工呼吸器使用者災害時個別支援計画の策定、要支援者一覧の作成など在宅患者の災害時支援体制を作っていただいております。引き続き、保健計画に基づき、災害時対策、コロナ対策等について市民の健康と暮らしの確保に向けた取組

を進めていただきたいと存じます。本日はコロナ対応のため会議への出席が出来ず申し訳ございません。今後ともよろしく願いいたします。

【委員】食育推進計画P.110、13行目に「更に、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、感染予防と免疫力低下防止の両立を図る食事の摂取の必要性も高まっています」と書かれていますが、今、消費者庁では『コロナ予防に根拠のあるサプリや特定の食品はない』と周知していますので、この書き方では誤解を招く恐れがあるかなと感じました。例えば「コロナ禍においても健康な生活を送るには日ごろからの適切な食生活の実践が求められます」等の一般的なことでもよいのではないかと考えました。次にP.139 イ) 食の安全性や食品表示等に関する情報提供の充実のところですが、食品表示法の「改正」ではなく「施行」によってかと思えます。コラムはとてもわかりやすく拝見しました。一点、コラムの「■食品表示の例」の部分は、コラムのタイトルが「食品表示を活用しよう！」となっているので、例えば「この食品にどのような栄養成分がどれだけ含まれているかがわかります。ご自身の適切な食事量を踏まえ、エネルギー、食塩などをチェックして活用しましょう」のように、もう少し説明を加えた方がよりわかりやすいのではないかと思います。また、「■食品表示の例」の下の枠の中の「①食品表示の例」については、項目名との重複や「②栄養成分表示の例」との並びの関係で、「①一括表示の例」とするのもひとつかと思いました。エネルギーのキロカロリーのKが大文字になっているので小文字が良いと思います。期限表示については、消費者庁は図になったものを公表していますが、お示しくくださった案の方がわかりやすいと思いました。

感想としては、コロナによって社会は大きく変化しましたが、一方で食や健康の大切さ、心豊かな食生活の大切さ、つながりを実感して楽しみながら食事をするものの大切さなどに、私たちを含めて多くの方が再認識したのではないかと思います。この計画にもそうした思いが込められているような気がして、大変素晴らしい両計画が出来上がったことに感激しております。いろいろありがとうございました。

【会長】いくつか意見がありましたが、その点に関して事務局いかがですか。

【事務局】ご意見ありがとうございます。勉強不足なところもあり、表現が適切ではなかった部分については、いただいたご意見を参考に修正していきたいと思えます。ありがとうございました。

【委員】全体的に読ませていただき、これが出来たんだ、と思いました。中で、かかりつけ医やかかりつけ歯科医、かかりつけ薬局という事が出ているが、そこで、薬局は一か所と限らないので、いま私たちは、保険証と共にお薬手帳を持ち歩いており、覚えきれない多くの薬を飲んでいても手帳をみられれば分かるので非常に役に立っている。そのことを踏まえ、どこかに保険証とお薬手帳を同時に携帯するという事を書いていただくことより良いのではないかと思います。

【会長】お薬手帳の活用について、今後の可能性など事務局いかがですか。

【事務局】ご意見ありがとうございます。お薬手帳を一冊にまとめて携帯するという事は大切なことだと思うので、どこかでその内容に触れられるか再検討させていただきたいと思えます。

【事務局】お薬手帳は、先ほど出た危機管理の部分でも、災害の発生時に手帳を持っているかどうかで、その後の避難生活の中で、医療の提供を受けるうえで非常に参考になる実際の事例の報告も受けていますので、盛り込んでいきたいと思います。ありがとうございました。

【委員】ここまで膨大な資料をまとめながら作り上げていくのは大変だったと思います。また、意見を述べさせていただいた内容を分かりやすい言葉でこの中に落としさせていただいて、読んでより分かりやすくなったと思います。ありがとうございました。先ほど食育推進計画の内容の変更という事で、P. 153③指標と目標のところ、初めの目標だと（私はなかなか難しいな、でもやはり必要なんだろうな）と思っていたところについて、変更がありほっといたしました。なかなか難しい内容でもあるので新しい情報を入れていただき、良かったと思います。私としては、P. 148のコラム『野菜をしっかりと食べよう！』について、府中市はJAや農家さんが頑張って野菜を生産、販売しています。また、JAのみならず、あちこちのスーパーでも『府中市産の野菜』コーナーを設けて販売していますので、府中産の野菜をここで売っていますよ、とかここで買って食べましょう、という取組の中で、府中市の野菜のおいしさを実感されたらいいのかなと思います。ここに載せる、載せないは別として、講座とかでお話しされてもよいのではないかと思います。いろいろありがとうございました。

【会長】ありがとうございます。最後に私から、感想を兼ねてお話させていただきます。まず、保健計画に関してですが、まとめるのに非常に知恵を絞られたと思います。それは健康推進部門が主体で作成するので、保健計画の基本は成人保健の部分が中核になると思うが、今回はライフステージごとに子供から高齢者まですべての世代をカバー出来るもの作るという事で苦心されたことと思います。改めて報告書を見ていて、これからもっと市の計画として、根本的に市をあげて住民とともに考えていただくべきところがあるところがありましたのでお話しします。一つは保健計画のP. 8②合計特殊出生率のところ、もともと府中市は、若い方の多い市であり出生率も高い地区だったが、最近かなり下降気味でこのまま行くともうじき東京都の合計特殊出生率と同じくらいになってしまうのではないかと思います。いろいろな要因があると思うが、成人保健をカバーする中で、若年世代、子ども子育て世代、特殊出生率が減ってきているという事を踏まえ、担当課と一緒に考えていくべきところがあるのではないかと。子育てしやすい環境、それは個人の健康も、また子育て世代にとってもソーシャルキャピタルという育てやすい地域が関係してくるのではないかと。このあたりも検討していく課題だと思いました。それと関係してP. 58 被援助志向のアンケートについてです。これは我々が研究で用いる、市民の方へのアンケートに入れさせていただく項目なのだが、これを紐解いていくと一つの傾向が見えます。被援助志向というのは他者からの援助を受けやすいかどうか、気兼ねなく助けてほしい時にはSOSを発信できるのか、助けてもらえるのかというところを見る指標で、これが低ければ苦しくても痩せ我慢して抱えてしまうし、あまりに高すぎると依存しすぎるというバランスが難しいというものである。こういったものがあまりに極端だとその後の健康や、社会的にも関係がでると言われている。これを見ていると、「困りごとを一緒に対処し

てくれる人が欲しい」、「困っていることへの他人からの助言や援助が欲しい」、「困っているときに話を聞いてくれる人が欲しい」というところで若年者が一番 SOS をあげている。我々のような高齢者の研究機関からすると SOS をあげるのは高齢者、特に一人暮らしの高齢者なのかなと思いがちだが、この全世代のアンケート結果を見ていると若年者の方が抱え込んで SOS を上げられない方が多いことが見えてくる。そういうことを考えると一つ一つの施策の中で若年の方の SOS と高齢の方の SOS をもう少し深堀し、サービスや施策について、住民の方々と連携しながら、世代を超えて考えていくべき課題だと思いました。カバーする範囲は広くなりますが若年者の課題まで、成人保健部門がカバーすべきところに入ってくるのかなという感想を持ちました。次に、成人保健と高齢部門の連携に関しては計画書 P.91 (5) 高齢期の新たな健康課題の特徴というところで「フレイルの予防」が出てきて、それと同時に介護予防もクローズアップされているわけですが、一方で P.92 では禁煙、適正飲酒、睡眠などいわゆる個人の生活習慣の課題も載っている。これも見せ方なので、データとしては正しいのだが高齢期でたばこを吸ったり、多量のお酒を飲んでいたり、睡眠時間が異様に少ない人はあまりいなく、どちらかといえば現役世代の課題である。高齢期の方々はこの辺は割と優等生が多いのではないかと思います。これはこれで置いておくとして、やはり重要になってくるのは、このような個人の生活習慣病対策と共に、心身の機能を落とさない、いわゆる介護予防との両方のバランスが重要で、高齢期の課題です。もし可能なら①ライフステージの特徴と取組みの方向性というところで、高齢期は生活習慣病対策の部分と加齢に伴う介護予防、フレイル予防の部分の両方のバランスが重要だという事を一言添えていただくと良いのではないかと思います。それは逆に言うと高齢支援の部門からみても高齢、介護保険や福祉計画との連動の必要性もこのことから見えてくる。成人保健の部門というのは、若年世代、子ども子育て世代とも自然に連携してくるし、高齢とも連携せざるを得ない非常に重要なつなぎ目の役割をされていることがこの計画書、報告書から見えてくることを私の感想として述べさせていただきます。

次に食育推進計画ですが、特に府中市においては民間企業との連携が非常に重要になってくると思います。その意味からみても成人保健の部門は、世代をつなぐだけでなく、産・官・民・学などの他分野、他領域と連携せざるを得ないというところが大きなポイントになってくると思います。おそらくその一番端的な例として今後出てくるのは、食育推進計画の内容の変更でご紹介いただきました P.153 新しい生活様式に対応した食を通じたコミュニケーションに関する普及啓発を実施するというところで、どのようなことを打ち出していくのか作戦があればいいのだが、これから一緒に知恵を絞っていかないとなかなか難しい。従来、会食は良いが個食はダメ、できるだけたくさんの人とコミュニケーションをとりながら食べましょうという事を推奨してきたのに、新しい生活様式になり全てが否定されている。それに対する事前策については、おそらく日本国中だれもが手探りの状況で、これは多分役所のスタッフだけでは思いつかないでしょうし、保健福祉などの専門職のアイデアもなかなか無いと思います。このようなところで突破口を切り開くのは、民間企業やお店などだと思うので、今後は、アンテナを

張って企業目線でいろいろなアイデアを出されている方と連携していかないと新しい生活様式に対応した食というのはなかなか気づけないのではないかと思います。そういう意味では、計画を実現していくうえでは、ますます他分野、特に民間企業との連携が不可欠になってくると思います。今後どのようにそれぞれの分野と連携していけるのか、私も応援させていただきたいですし、皆様もそういう目線でこの計画の実行に向けて取り組んでいただければと思います。私の感想は以上です。皆様の意見を聞いて、事務局からいかがでしょうか。

**【事務局】** 貴重なご意見ありがとうございました。今回、この二つの計画を一本にするという事でライフステージという物差しは整えつつ進めてきたが、指標にあたってそれぞれの視点が違うところがあった。またコラムの位置づけについても、コラムを通じて気づく部分や市民の方に訴えられる部分があるという事を作業しながら実感しました。その意味ではそれぞれの文言の修正以外に、今後この計画を市民の方にどう伝えていくかという手法にも伝わる場所があるので参考にさせていただきたいと思います。特に会長からの総括的なまとめにもありましたが、今、全庁的に計画の無い課はなく、それぞれの課でいろいろな計画を持っている中で、保健計画や食育推進計画は年代に応じた健康づくり、また食を育むという目線からも裾野が広い計画なので、どういう街づくりにしたら良いか、どういう地域のつながりがあったら良いかという目線が第2次計画くらいから検討の方向性がだいぶ深まってきたなと痛感しています。特に今年度はコロナで新しい生活様式になり、国では今、会食を通じた感染が広がっているという専門家の分析があり、大声を出すことが感染の機になりつつあるということで声をあげずに、食事が終わったらすぐマスクを着けて小声で話をしましょうと示している。国の食育の計画自体も具体的には食を通じたコミュニケーションについてどうしていくのか、具体的なイメージについて今後練っていくところだと伺っていますので、今後も専門の先生や東京都の意見でしたり、それぞれの企業の企業理念としての新しいところに踏み込んだ情報をいただける部分もあるかと思います。毎回計画を作成するたびにいうのだが、今回この計画が出来たと同時に、計画の後の評価というところでは次の計画の策定に向けた作業が始まることになるのでまた気づいたところのご意見をいただく場を持っていきたいと思っています。ぎりぎりになっての資料の送付や書面での会議の開催になったこともあり、特に会長にはお手間をおかけし感謝申し上げますとともに、委員の皆様には顔の見える関係になったことを本当にありがたく思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。今日いただいたご意見につきましては、それぞれ検討し加筆や表現方法の変更など修正できる部分は修正したいと思います。

**【会長】** 国がどのような新しい生活様式に基づいた食育や全ての生活における提案を出してくるのか分かりませんが、国が出してくるものは北海道から沖縄まですべてに共通する総論的な約束事、各地の好事例を集めたものだと思うので、逆に府中市の実際の新生活あるいは企業生活を反映したアイデアというものを府中市から発信されて広く広がることを期待しています。委員の皆様方にはお知恵と、また一緒に汗をかいていただければと考えております。

## 2 その他

### (1) 府中市保健計画及び食育推進計画の答申について

【事務局】資料「府中市保健計画及び食育推進計画について（諮問）」をご覧ください。両計画の策定にあたり、本年5月に高野市長より諮問を受けております。諮問事項である第3次保健計画、食育推進計画について、本協議会で協議を踏まえ答申が必要となります。計画につきましては、本日いただいたご意見を反映させ、最終素案を作成します。

【会長】事務局から説明があったとおり、本日の協議会を持って素案が固まりましたので答申をします。資料の「第3次府中市保健計画及び食育推進計画（答申）」をご覧ください。諮問に対して、次のように答申を考えております。

- 1 第3次府中市保健計画及び食育推進計画については、別添のとおりです。財政状況など、非常に厳しい環境の中にありますが、答申書に盛り込まれた施策が、確実に推進されますよう、格別のご配慮をお願いします。
- 2 第3次府中市保健計画及び食育推進計画は、健康づくりと食育のさらなる連携を図るため、一体的に策定することが適当と考えます。
- 3 第3次府中市保健計画及び食育推進計画の作成に際して、市民の方々にアンケート調査を実施しました。今後、市の事業の計画・実施にあたって、これらを十分ご活用願います。以上の内容でよろしいでしょうか。

【委員】良いです。

【会長】承認いただきましたので、この内容で答申します。

### (2) 今後の予定について

【事務局】今後の予定ですが、10月19日に市長への答申を行います。本日の協議会でいただいたご意見やことばの言い回しについては答申までに修正し、藤原会長にお諮りし、答申を行います。その後、11月4日に庁議に付議、11月18日に厚生委員協議会でご審議いただきます。12月から1か月間パブリックコメントを実施し、その結果を踏まえた計画書の最終案を本協議会でご検討いただきます。次回の協議会は、パブリックコメント実施後の来年1月を予定しております。近くなりましたら、日程調整させていただきます。

本日の議事録は後日委員の皆さまにご確認いただき、11月中旬を目途に公開をする予定です。以上です。

【会長】これで本日の第4回府中市保健計画推進協議会を終了いたします。長時間にわたり、お疲れ様でございました。

以上